芥川と私

一般社団法人 水生生物保全協会　代表理事　紀平　肇

私が初めて芥川にかかわったのは、およそ40年前に大阪教育大学が実施した府下の河川調査がおこなわれたときである。

塚脇橋に集合し、水生昆虫、付着ソウ類、魚類などの調査がおこなわれた。なかでも投網を用いて魚をとる快感は忘れられず、自分で投網を購入し、練習し、その後の淀川の調査委に大いに役立った。

塚脇橋は初めて投網をおぼえた所で、私にとって忘れられない所である。また、この付近はカワニナが多く生息し、ゲンジボタルの生息地として久しく続いた。しかし、近年著しく減少している。原因は石の表面が泥をかぶっていることにある。

かつて、桜堤付近にはマツカサガイが生息し、アブラボテが生息していた時期もあるが、近年は確認されていない。

芥川大橋より下流には、砂が埋積しているところがありササノハガイやイシガイが見られる。淀川との合流付近にはササノハガイ、イシガイ、ドブガイ、オグラヌマガイ、マルドブガイ、タイワンシジミなどが生息している。

合流点下流（淀川右岸）には、チリメンカワニナやクロダカワニナなどが生息している。以上が芥川の貝類の生息を中心にした近況である。

芥川の生き物たち ハグロトンボ

あくあぴあ芥川 学芸員　秀瀬 みのり

夏になると、芥川の中流域の水辺や草むらにたくさんのハグロトンボが飛んでいる風景が見られます。ハグロトンボはツルヨシなど抽水植物が生えているゆるやかな流れのある環境を好み、成虫は5月下旬から10月頃まで発生しています。

芥川にはカワトンボの仲間が4種生息していますが、ハグロトンボの個体数が圧倒的に多く、とにかくたくさん見られます。

ハグロトンボの生態的特徴として、羽化したばかりの個体はいったん水辺を離れて近くの林や木陰で成熟するまで過ごし、繁殖のために再び水辺に戻ってくることが知られています。芥川周辺にはハグロトンボにとって必要な「水辺と林」がセットの環境が多くあるのでしょうか？林や水辺のない家の庭や駅前の商店街の近くを飛んでいるという情報もあります。

芥川のハグロトンボの生態を調べて身近な自然に親しみ、みんなで共有するため、あくあぴあ芥川では市民の人たちと一緒にマーキング調査を行っています。

新しい発見は意外と身近にあるもの。

来年も市民のみなさんと一緒に芥川のハグロトンボ調査を続けていきます。

●●　芥川・クリーンアップ大作戦　　平成24年3月24日に実施します　●●

芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに一緒に参加してくれる方を募集しています。
イベント等の情報は下記の芥川倶楽部ブログにて、紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

ブログ :http://akutariv.blog85.fc2.com/　　HP :http://akutagawaclub.web.fc2.com/
e-mail : akutagawa0726@yahoo.co.jp

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより

Vol.11
2011年
秋号

第4回 いい川・いい川づくりWS　グランプリ受賞！

９月２４・２５日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された、「いい川・いい川づくりワークショップ」（主催「いい川・いい川づくり実行委員会」後援　国土交通省）において、全国３７団体の中から、芥川倶楽部がグランプリを受賞しました。

この大会は「いい川とは何だろう」を問いかけ探っていくコンテスト形式のワークショップで、１０回目までは「川の日ワークショップ」の名称で開催され、今年は通算で１４回目の大会です。

芥川倶楽部は、アユをキーワードに、魚みちづくりや、澪筋づくり、父さんのための魚とり講座について発表しましたが、一次選考は大苦戦。しかし、２日目の復活選考で高評価をいただき、最終選考では満票を得て、見事グランプリとなりました！

選考委員からは、魚道（さかなみち）づくりにおいて、まず土のうで手作り魚道を設置して、河川管理者である国や府を動かし、本格魚道づくりに結びつけ、それが天然アユの遡上へつながったこと。澪筋づくりでは、川の復元力をうまく活用したこと。お父さんの魚とり講座は、次世代の育成につながる取組であること。さらには、市民だけでなく、大阪府や高槻市、そして国ともよく連携し、継続して活動していることが、高く評価されました。

ワークショップでは、毎回活動にちなんだ賞の名前をいただけるのですが、芥川倶楽部は「土のう積みの努力がひとと魚の喜ぶ芥川をつくるで賞」をいただきました。

芥川で活動する様々な団体からなる芥川倶楽部。その取組が全国的に評価されたことは、大変うれしいことです。

この受賞を励みに、これからも、ひとと魚の喜ぶ芥川づくりに、みんなで取り組んでいきたいと思います。

平成23年(2011年)11月 発行　芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称：芥川倶楽部～
事務局：NPO法人芥川倶楽部　〒569-0805　高槻市上田辺町１－１８　　TEL　072（685）3503
ホームページ　http://akutagawaclub.web.fc2.com/

～～～「芥川」は大阪ミュージアムの登録物に認定されています　～～～

アユちゃんお帰りな祭　～全5回の連続講座　開催中！～

今年3月、芥川大堰に待望の魚みちが完成したことにより、淀川から芥川に天然アユが遡上してきています。皆さんにアユについてもっと知ってもらうために、また芥川がアユにとってより住みやすい場所となるように、全5回の連続講座「アユちゃんお帰りな祭」を開催中です。

第1回　アユの生活史と環境条件
5月21日（土）

大阪府 環境農林水産総合研究所 水産技術センターの大美 博昭さんを講師に迎えて開催した講座には４３名の参加がありました。

アユの一生には、半生を過ごす大阪湾、シラス期前を過ごす干潟や砂浜、遡上した川での餌場や浮き石の多い産卵場（瀬）など多様な環境が健全であること、また、それがつながっていることが重要であるとまとめられました。

これまでの大阪湾や大和川での調査成果などを紹介しながらのお話で、参加者からの質問もたくさんあり、これからの芥川にとって興味深いお話となりました。

第2回　魚の調べ方と良い魚みち
6月18日（土）

フィールド講座を芥川大堰魚みちで実施し、悪天候の中、28名の参加がありました。

●魚の調べ方

花﨑講師（あくあぴあ芥川）から、タモ網、もんどり等を使った魚の採取方法等の解説の後、タモ網等を実際に使って魚を採取しました。投網ではアユが採れました。

定置網による魚みち遡上調査では、大きなナマズが遡っているのが確認できました。

●良い魚みち

山本講師（あくあぴあ芥川）から、魚みちを観ながら、良い魚みちに必要な条件等の解説があり、流速の調査などを行いました。

第3回　アユの産卵場を整備しよう！
10月1日（土）

来春、芥川生まれの若アユが再び戻ってくるように、産卵場の整備を行いました。大学生や、普段芥川で釣りを楽しんでいる方など32人の参加者がありました。

横山講師（大阪市水道記念館）、花﨑講師（あくあぴあ芥川）の説明の後、城西橋上流と桜堤公園で、川に入って畑を耕すように川底を混ぜましました。最初は固く締まっていた川底が、だんだん「ふわふわ」に。そうなれば産卵場としての整備は成功です。

アユは産卵期になるとサビ色になりますが、この日捕獲したアユは、まだサビ色になっていませんでした。アユの産卵は水温が15℃ぐらいになると始まります。当日の水温は19℃。産卵はもう少し先のようです。

これからの講座予定

第4回　アユの卵を見つけよう！

第3回で整備した産卵場にアユが卵を産みつけられたかを調査します。

日時：平成23年11月5日（土）午前10時～

場所：城西橋上流右岸集合

第5回今後のアユ遡上継続･増加をめざして

平成24年2月ごろ開催予定

平成23年度定例総会

今年も７月７日の「川の日」に、芥川倶楽部定例総会を開催しました。14団体、44名のご出席があり、平成２２年度活動報告と決算、本年度の活動計画と予算案、規約の改正、役員の改選が満場一致で承認されました。また、新川・姫蛍と花を守る会と高槻シティ国際ハーフマラソン実行委員会、ＴＫＫ自然観察会がネットワークの新たな仲間に加わりました。田口代表や、新たに副代表となったパナソニック松愛会高槻支部の北出さん、ＮＰＯ法人芥川倶楽部の山本さんのもと、楽しみながら活動していくことを確認して、懇親会で更なる親交を深めました。

お父さんのための魚とり講座

芥川倶楽部とあくあぴあ芥川の共催で、7月24日に「お父さんのための魚とり講座」を行いました。この講座は、夏休みの始まりに、魚の上手な取り方を内緒でこっそりお父さん達に伝授し、子どものヒーローになってもらおうというものです。

当日は、お父さん、お母さん、おじいさん、そして子どもたち総勢48人が参加。

まず、お父さんたちは、芥川で魚の取り方の講習と実習です。その間に子どもたちは、あくあぴあ芥川で、芥川にいる魚の勉強。コイとフナの違いや、ギギが取れたらすごいよ! という話を聞きました。

合流してからが、お父さん・お母さんたちの腕の見せ所です。川に入ってお父さん達自ら子どもたちに上手な魚の取り方を教えました。みんな魚とりに夢中でした。

最後に、取れた魚の説明を聞きました。この日取れた魚は9種類、そして、なんと5年半ぶりにギギの子どもが取れました!!

お父さんたちは、先に魚採りを実践・予習中

採り方を子どもに教えます
「お父さん上手いだろ！」

水辺の学校

「水辺の学校」とは、小学生が川の生きもの調べや川の環境比べを通じて、川の環境や水辺の安全について学習しようという活動です。

6月24日に、あくあぴあ芥川との共催で、真上小学校4年生の子どもたち９１名と、桜堤公園で水辺の学校を行いました。

たくさんの魚や水生昆虫を採取しましたが、今回は・・・なんと！アユもゲット！

「この場所で天然遡上アユが見つかったのは初めて！」、「アユはいい川・いい環境のシンボル」と興奮気味に説明する講師の話に、子どもたちも目を輝かせて聞き入っていました。

また、8月30日には如是小学校3年生の子どもたち70名が、女瀬川で水辺の学校を楽しみました。アユは見つかりませんでしたが、男の子の網に飛び込んできた30cmを超えるカムルチーには、みんな大興奮でした。

校区に身近な川が流れる両校の子どもたち

- ●天気予報を見て！
- ●大人と一緒に！
- ●雨が降ったら川から上がる！

の３つの約束を守って、これからも「楽しく、安全に」水辺に親しんでくださいね。

芥川に天然アユ遡上！～アユ採り50年の名人は語る～

ここ何十年も天然のアユは芥川の上流までは上っていないが、今年は少し様子が違うようだ。これまで放流のアユはたくさん見てきたが、放流アユはいったん降下（押し流される）すると遡上しようとはせず、落ちたところで生活する習性がある。しかし、今年のアユはものすごい勢いで飛び跳ねており、その行動力、色合いなどから間違いなく天然だと思う。おめでとう。（中谷　弘さん談）